

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）
「障害者の防災対策とまちづくりに関する研究」
分担研究報告書

災害時要援護者支援に関する国際比較

研究分担者 河村 宏、浜田麻邑、池松麻穂 NPO 法人 支援技術開発機構
研究代表者 北村弥生 国立障害者リハビリテーションセンター

研究要旨

障害者本人を含む地域防災資源の掘り起こしについて国際的視野で好事例を交換することを目的に、アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁（Federal Emergency Management Agency of the United States）のOffice of Disability and Integrated Coordination(ODIC)本部で、各地のFEMA支部および連邦教育省NIDRR（National Institute on Disability and Rehabilitation Research）とテレカンファレンス設備も使って、河村およびFEMA本部の特別のニーズを持つ住民の防災を担当するMarcie Rothがそれぞれ障害者の防災についてのプレゼンを行い、知見の交換を行った。

FEMAはdisproportionally affected population(顕著にリスクの高い人々)というカテゴリーを設けており、これは、「日本の災害時要援護者」とほぼ同じであるが、地域によってはそのカテゴリーに属する人が全住民の30%以上に達するという。そこで、障害に関する専門家を地域に投入して障害者自身の災害の備えを強化するという取り組みを、ニューヨーク市周辺の災害復旧から始めていることがわかった。

また、平成25年度には、平成16年12月のインドネシア地震による津波の影響があったインドのスワミナーサン研究財団から情報教育部門長(ソーシャルワーカー) ナンシー・アナベル氏が来日した機会に、浦河町と仙台市の障害関係者の交流会に参加を得て、災害対策の国際的な普遍性と特殊性について意見交換を行った。その結果、事前準備の重要性は共通していることが認識されたが、社会構造(インドのカースト制と日本の町内会)には差異があり、それぞれの対処方法の困難について情報交換を行った。

(資料8) 東日本大震災被災者支援のための視察と交流 IN 宮城(浦河防災研究会)

(資料9) Lessons learned from March 11, 2011 for inclusive Community Based DRR(2013.9.23 at NIDRR, USA)

(資料10) ナンシー・アナベル氏講義メモ(インド、スワミナーサン研究財団, 2013.10.30, 静岡県立大学石川准教授の招聘による)